

福岡県における漁業就業構造の変化

廣瀬 道宣

(水産海洋技術センター)

福岡県における漁業就業構造の現状と変化を把握するために、漁業センサスと過去に実施された漁業就業構造に関するアンケート調査のデータを用い解析を行った。福岡県における就業者数は、1988年から2018年の30年間で男性は8,757人から3,633人に、女性は3,087人から743人に減少していた。漁業種類別にみると、筑前海区、有明海区、豊前海区のいずれの海区においても、全漁業種類で1992年から2018年にかけて高齢化が進行していた。また、2018年の30歳未満の就業者の割合が、筑前海区では2そうごち網、中型まき網、有明海区ではのり養殖、豊前海区ではかき養殖で他の漁業種類と比べると高く、比較的后継者を確保できていると考えられた。

キーワード：漁業就業構造、高齢化、後継者不足

沿岸漁業では全国的に後継者不足や就業者の高齢化により、他産業と比較して高齢層へのシフトが著しく、就業構造の不均衡が指摘されている¹⁾。福岡県における漁業就業構造の実態については、過去に報告があるが²⁻⁴⁾、近年の状況は把握できてない。そこで、本研究では、漁業センサスと本県で行った漁業就業構造に関するアンケート調査をもとに、過去の報告と比較を行い、漁業就業構造の現状と変化を把握することを目的とした。

在、豊前海 2004 年 4 月 1 日現在)^{3,4)}の結果を用いた。年齢層については、過去の報告に合わせ²⁻⁴⁾、漁業種類毎に、30歳未満の青年層、30～64歳の壮年層、65歳以上の高齢層の3つの構成割合をみた。漁業種類について、男性は30人以上の種類を選定し、女性は、男性で選定された種類とした。

結果および考察

資料および方法

就業者数の推移については、1988年から2018年まで5年ごとの漁業センサス、年齢構成の推移については、1988年から2018年まで10年ごとの漁業センサスを用い、海區別男女別の比較を行った。

漁業種類別年齢構成については、県漁業管理課が本県沿岸全34漁協に対して2018年4月に実施した漁業就業構造に関するアンケート調査結果を用いた。調査対象は、組合員と准組合員で、回収率は100%であった。アンケートの調査項目は、氏名、年齢(2018年3月31日現在)、主たる漁業種類、漁船番号の4項目である。また、就業構造の変化をみるため、1991年11月に県水産振興課が実施した調査(1992年4月1日現在)²⁾および水産海洋技術センターが2003～2004年に実施した調査(筑前海：2003年4月1日現在、有明海：2005年4月1日現

1. 就業者数の推移

漁業センサスからみた県全体及び3海区の男女別就業者数の推移を図1に示した。

県全体の就業者数は、1988年に男性は8,757人、女性は3,087人であったが、30年後の2018年には、男性は3,633人と59%減少し、女性は743人と76%減少していた。

筑前海区の就業者数は、1988年に男性は4,666人、女性は575人であったが、30年後には、男性は1,811人と61%減少し、女性は106人と82%減少していた。

有明海区の就業者数は、1988年に男性は3,204人、女性は2,362人であったが、30年後には、男性は1,403人と56%減少し、女性は477人と80%減少していた。

豊前海区の就業者数は、1988年に男性は887人、女性は515人であったが、30年後には、男性は419人と53%減少し、女性は160人と69%減少していた。

宮本ら^{3,4)}は、2003年から15年後の2018年にかけて、漁業就業者は、県全体で男性は半減、女性は1/3まで減少し、各海区では、男性は3海区とも半減、女性は、豊前海で半減、筑前、有明海区では、約1/3まで減少すると予測している。

実際には、2003年を基準とした2018年の就業者数は、県全体でみると、男性では26%減、女性では半減に留まった。海区別にみると、筑前海区では、男性で31%減に留まったのに対し、女性では予測どおり約1/3まで減少した。これは、男性を主体とした中型まき網、2そうごち網、はえ縄などの大型の漁船漁業の就業者の減少が少なかったことやかき養殖が順調に発展した⁵⁾ことが要因であると考えられた。有明海区では、男性で20%減に留まったのに対し、女性では予測どおり約1/3まで減少した。これは、主幹産業であるのり養殖の男性就業者の減少が少なかったためであると考えられた。豊前海区では、男性で19%減、女性で41%減に留まり、これは、小型の漁船漁業や採貝など高齢になっても続けられる漁業が多く、高齢者の離職が少なかったためであると考えられた。

2. 各海区の年齢構成

漁業センサスからみた県全体及び海区別の男女別年齢構成の推移を図2に示した。

県全体では、男女ともに、1988年は50～54歳の階層を主体とした単峰型を示し、その後、年齢構成の型は大きく変化しないまま図の右下方に向けて推移し、2018年には、明確な山が形成されず、65歳以上にむけてなだらかな上昇傾向がみられた。

筑前海区の男性は、1988年は、戦後の新規若年参入者世代であった50～54歳の昭和一桁世代と35～39歳のその後継世代を主体とした2峰型を示し^{2,3)}、10年後も同様であったが、2008年以降は、単峰型を示した。これは、昭和一桁世代の加齢による引退によるものと考えられた。一方、筑前海区の女性は、1988年には50～54歳の階層を主体とした単峰型を示し、10年後もこの階層の単峰型を示したが、2008年以降、明確な山がみられず、2008年には50～54歳の階層と65～69歳の階層に、2018年には50～54歳の階層と70～74歳の階層にわずかに山を示した。

有明海区の男性は、1988年に20～29歳の階層と50～54歳の階層を主体とした2峰型を示したのに対し、女性は45～49歳の階層を主体とした単峰型を示し、男女ともに、年齢構成の型が大きく変化しないまま右下方に向けて推移し、2018年には、明確な山が形成されず、男性は65歳以上、女性は60歳以上にむけてなだらかな

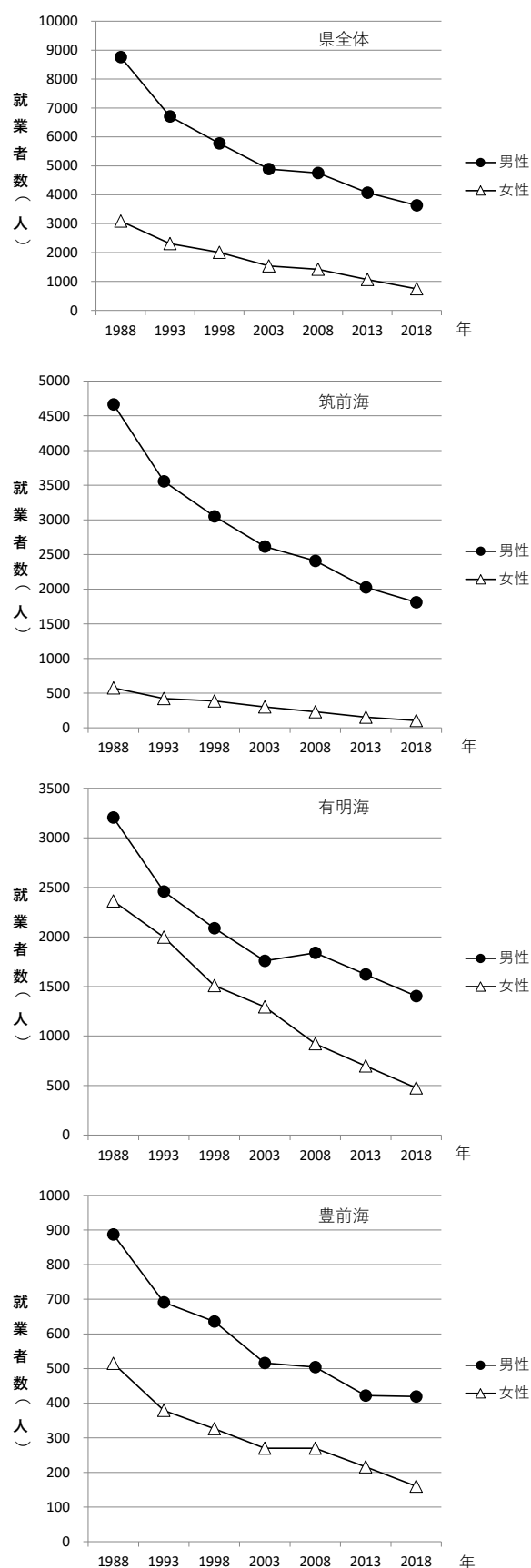


図1 男女別就業者数の推移

福岡県における漁業就業構造の変化

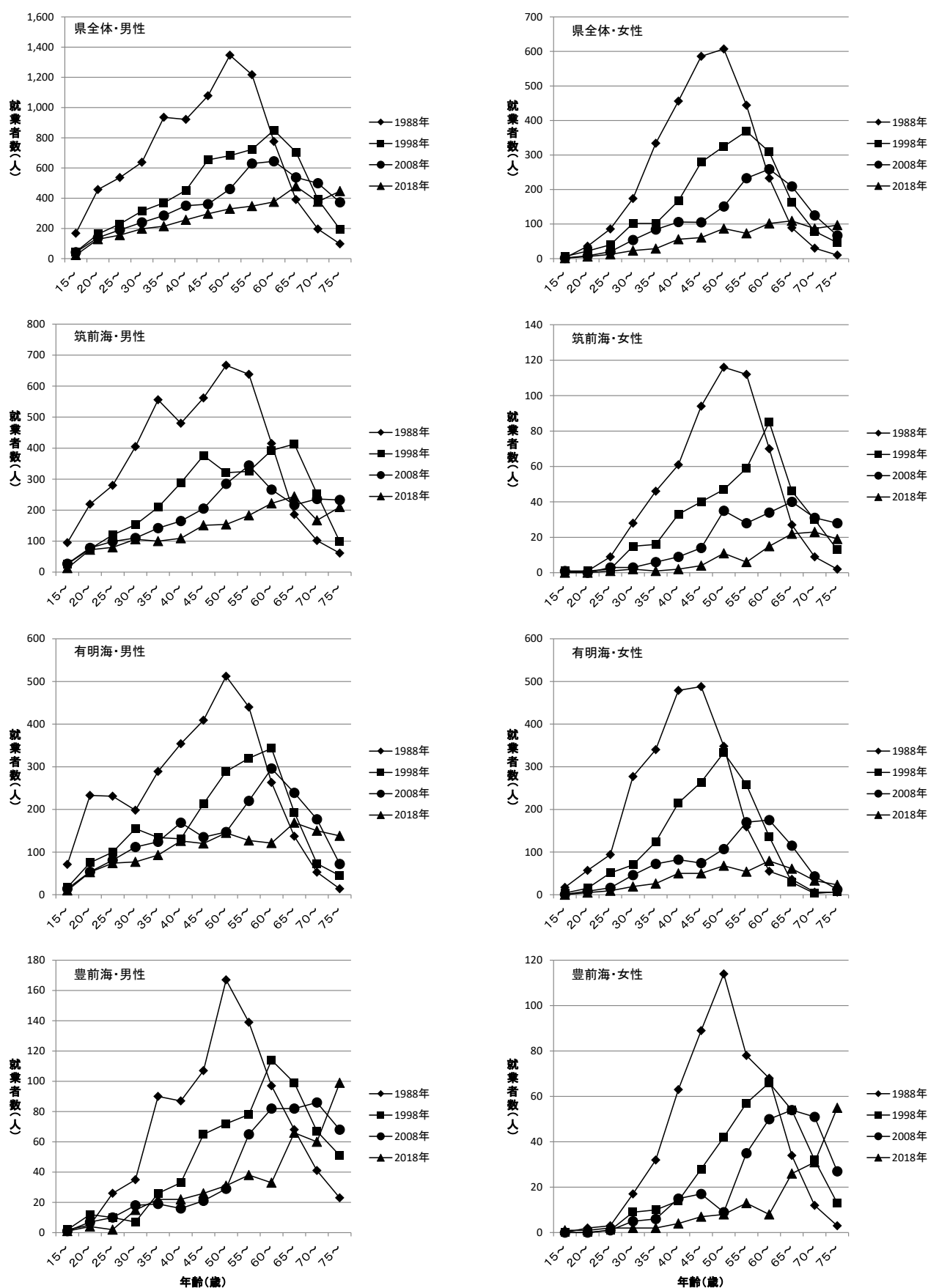


図 2 男女別年齢構成の推移

上昇傾向がみられた。これは、男性では、55～69 歳の階層の引退などによる減少、女性では全体に就業者数が減少していることが要因であると考えられた。

豊前海区では、男女ともに 1988 年は 50～54 歳の階層を主体とした単峰型を示し、2008 年までは年齢構成の型が大きく変化しないまま右下方に向けて推移したが、2018 年には、75 歳以上の階層を主体とする年齢構成になった。このことから、豊前海では、小型の漁船漁業が多いため高齢者の継続した就業が可能で、75 歳を過ぎても引退せずに漁業を営んでいる就業者が多く、高齢化が進行していると考えられた。

3. 漁業種類別年齢構成

漁業種類別にみた 3 海区の就業者の年齢構成の変化を図 3～5 に示した。

筑前海区の主な大型漁船漁業についてみると、中型まき網では、1992 年から 2018 年にかけて就業者数は 167 名から 121 名に減少していたが、年齢構成はほとんど変わらず高齢層の占める割合も 7%から 11%と大きな変化はみられなかった。2 そうごち網では、1992 年から 2018 年にかけて就業者数は 264 名から 145 名に大きく減少し、高齢層の割合が 1%から 25%に増加していた。いずれの漁業種類も他の漁業種類と比較すると高齢層の占める割合が低く、青年層、壮年層の割合が高かった。これは、これらの漁業が船団構成で操業され重労働であるため、高齢者の就業が困難であることや、船団を形成する漁業では、新規就業者を積極的に雇用することが要因であると考えられた。小型漁船で単身操業する一本釣や刺網では、1992 年のそれぞれ 872 人、765 人、2003 年 809 人、823 人と大きな変化はないが、2018 年には 532 人、350 人と大幅に減少している。高齢層の割合は 1992 年ではそれぞれ 26%、19%、2003 年には 44%、41%に増加していたが、2018 年には 52%、40%と大きな変化はなかった。この傾向は、他の小型漁船漁業にもみられ、2003 年から 2018 年にかけて就業者数は減少しているが、高齢層はあまり増加していない。これは、一定の割合で高齢者が離職しているためと考えられた。かき養殖は、1992 年から 2003 年にかけて就業者数は、男性 4 人から 21 人、さらに 2018 年には 55 人と急増している。一方、女性は 1992 年と 2003 年は 0 人で、2018 年に 1 人となっている。女性就業者が少ないのは、筑前海区では雇用労働を主体としている⁶⁾ためであると考えられた。

有明海区についてみると、就業者数が 1988 年から 2008 年にかけて減少している中で、主幹漁業であるのり養殖業も、1992 年から 2005 年にかけて男性 1,644 人から 989

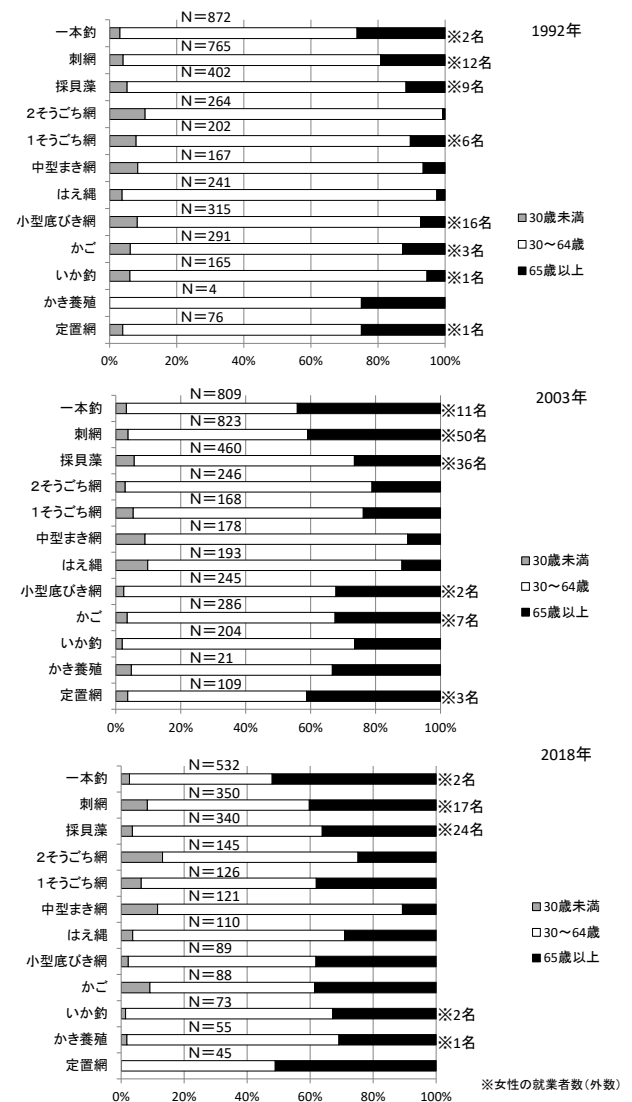


図 3 筑前海区の漁業種類別年齢構成の変化

人、女性 612 人から 351 人と著しい就業者数の減少がみられ、2005 年から 2018 年にかけて男性は 989 人から 971 人とほとんど変化していないが、女性は 351 人から 251 人と減少がみられた。高齢層の割合は、男性で 1992 年 14%から 2005 年 32%と倍増したが、2018 年は 34%とほとんど変わっていない。一方、女性は 1992 年の 16%から 2005 年の 34%へと倍増し、2018 年には 42%に増加していた。2005 年以降、女性は新規就業者が少なく、高齢化が進んでいるものの、男性は就業者数、年齢構成ともに大きな変化はないことから、適度に新規就業者が確保できていると考えられた。

豊前海区についてみると、小規模多様な漁業で構成され、かき養殖業を除く漁船漁業、採貝では、男女ともに就業者数に大きな変化はないものの、緩やかな減少傾向を示し、いずれの漁業も高齢層の占める割合が増加している。かき養殖は、1992 年から 2004 年にかけて就業数が、男性 26 人から 88 人、女性 8 人から 73 人と大幅に

福岡県における漁業就業構造の変化

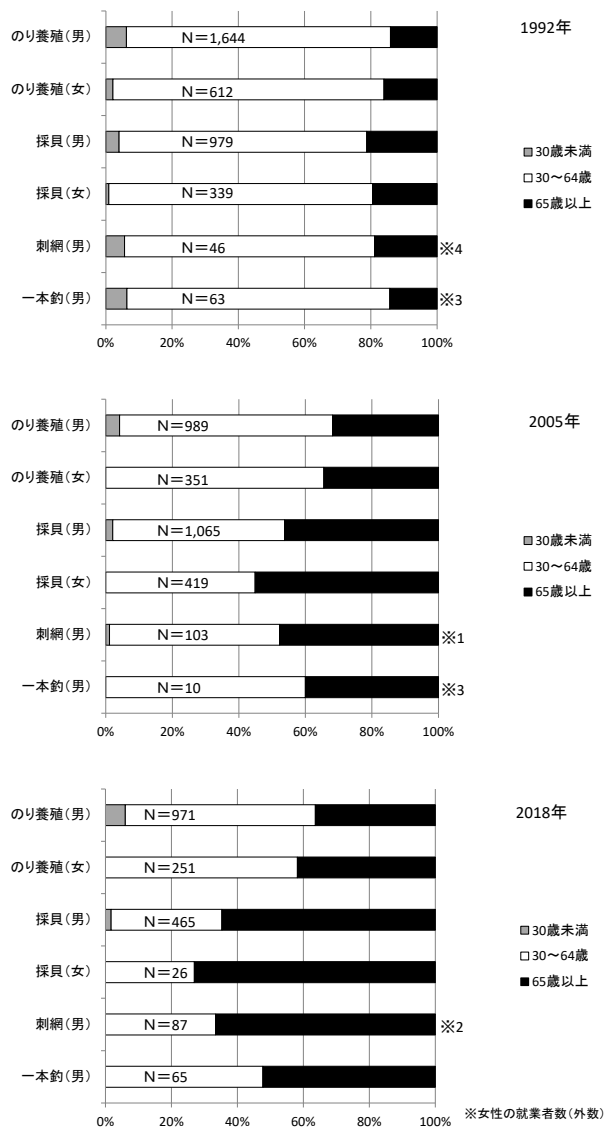


図4 有明海区の漁業種類別年齢構成の変化

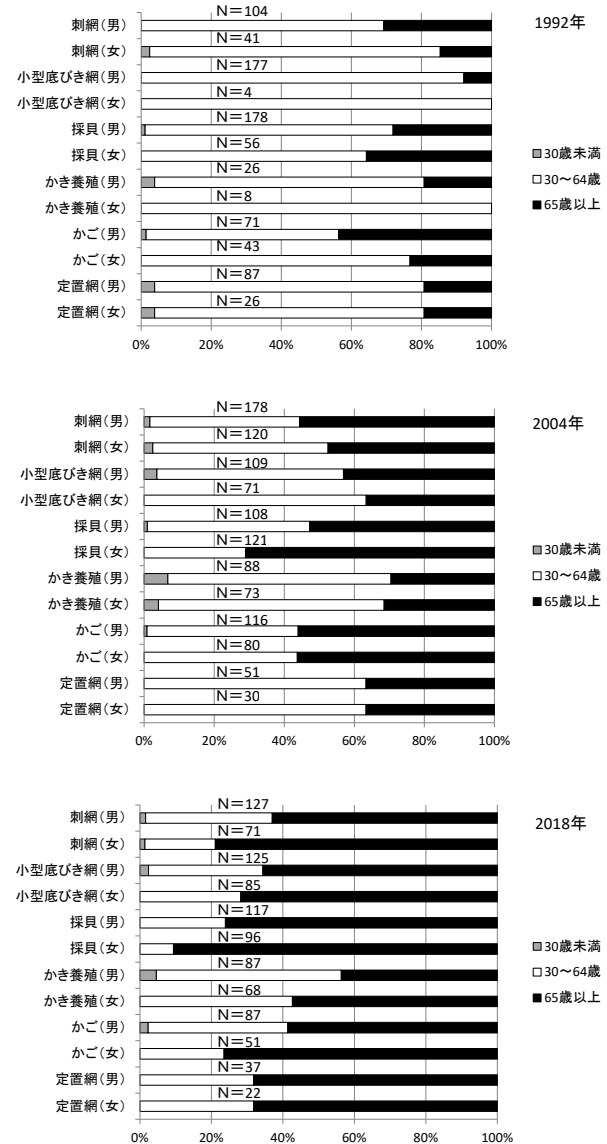


図5 豊前海区の漁業種類別年齢構成の変化

増加したものの、2018年は男性87人、女性68人とほとんど変わっていない。また、年齢構成をみると、高齢層の割合は、1992年の男性は19%、女性は0%であったが、2004年にはそれぞれ30%、32%まで増加し、さらに2018年には44%、57%と増加していた。これは、豊前海区では、かき養殖は、家族労働を主体としている⁶⁾ことから、新規就業者、廃業者は、家族構成の年齢構成の変化によるものであることが要因であると考えられた。

文 献

- 1) 加瀬和俊. 沿岸漁業の担い手と後継者—就業構造の現状と展望—, 初版, 成山堂, 東京. 1988 ; 53-82.
- 2) 宮本博和, 太刀山透, 濱崎稔洋. 福岡県における漁

業就業構造の現状. 福岡県水産海洋技術センター報告 1993 ; 1 : 243-254.

- 3) 宮本博和. 筑前海区における漁業就業構造の変化. 福岡県水産海洋技術センター研究報告 2005 ; 15 : 145-154.
- 4) 宮本博和. 有明海区・豊前海区における漁業就業構造の変化. 福岡県水産海洋技術センター研究報告 2006 ; 16 : 129-141.
- 5) 篠原直哉, 佐藤利幸. 糸島におけるカキ養殖業の発展とカキ小屋の役割 2016; 26: 69-72.
- 6) 中原秀人, 寺井千尋, 里道菜穂子, 篠原満寿美. 福岡県におけるカキ養殖の産地構造と生産性・収益性. 福岡県水産海洋技術センター研究報告 2019; 29: 57-63.